

学生確保の見通し等を記載した書類

目次

(1)	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	P1
①	学生の確保の見通し	P1
ア	定員充足の見込み	P1
イ	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	P2
ウ	学生納付金の設定の考え方	P6
②	学生確保に向けた具体的な取組状況	P6
(2)	人材需要の動向等社会の要請	P8
①	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	P8
②	上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	P8
(3)	地域社会的要請への対応	P9

学生確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

①学生確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1) 入学定員設定の考え方

日本における医療は、急速な少子高齢化の進展、医療の高度化・複雑化、在院日数の短縮、医療ニーズの多様化など、大きく変化している。高度先進医療におけるチーム医療の促進、在宅療養における他職種連携など、看護職にはエビデンスに基づく高度な看護実践を遂行できる高度な実践力の育成と共に、研究・教育能力の向上が必須であり、博士後期課程の設置が不可欠である。また、北播磨・丹波地区においては、看護系大学及び大学院において地域の医療を支える看護職を育成できる優秀な教育・研究者が求められており、博士の学位を修得した教育研究者を育成する必要がある。

本学の大学院看護学研究科修士課程は、平成27年4月に開設し、6名の定員で、平成29年3月に1期生が、平成30年3月には2期生が修士（看護学）の学位を取得し修了を迎えることができた。修士課程修了生及び在学生の中には、博士後期課程に進学したいと希望する院生もおり、北播磨地域の病院に勤務する看護教育担当者からも博士への進学希望が寄せられている。北播磨・丹波地域に博士後期課程を開設してほしいという要望に応えるためにも、平成32年4月には博士後期課程を開設したいと考えている。

長期的・安定的な定員確保については、第1に、本学修士課程の修了生および修士課程に在籍する本学助教・助手らを教育研究者として育成するために、博士課程での学修を促していく方針である。第2に、北播磨・丹波地域のすでに修士課程を修了している看護系教員・医療従事者を積極的に受け入れ、北播磨・丹波地域の看護学教育並びに看護実践を支援したいと考えている。また長期的には、本学保健医療学部看護学科の卒業生にも将来修士課程での学修を促し、博士課程で次世代の看護学教育研究者を育てていくことを目指している。

本学大学院博士後期課程の入学定員については、修士課程の定員が6名であり、北播磨・丹波地域の看護職の間に大学院教育の志向が定着しているとは言い難い状況であることと、実践力のある教育研究能力を備えた看護系人材を育成するためには個々の学生の学修状況に応じた個別教育を充実させるために、博士後期課程の入学定員は2名とする。

2) 入学定員充足の見込み

全国的に看護学研究科修士課程の設置状況は、平成26年度の36研究科であったものが、平成30年度に57研究科となるなど、増加傾向にある（資料1）。一方、看

護学研究科博士課程についても、増加傾向にあるものの、その数は修士課程よりも少なく、志願者数は年々増加している状況にある（資料2）。

本学が所在する兵庫県内には、平成30年3月時点で国立1校、公立2校、私立4校、計7校の大学院看護学研究科博士課程を設置する大学がある。兵庫県内における平成30年4月の充足状況は、定員47名に対し入学者数が51名と、入学者数が定員を上回っている（資料3）。

また、本学大学院看護学研究科博士課程入学に対するアンケート調査を実施した（資料4）。対象は、本学周辺地域における看護系大学教員及び医療施設に勤務する修士課程在学中または修了した看護職者である。このアンケート結果からは、本学博士課程が設置された場合受験すると回答した者が14名となるなど、入学定員2名を超える結果となった。

さらに、近隣大学の看護学部長並びに病院看護管理者に本学大学院看護学研究科への看護職者派遣についてヒアリングを行ったところ、ヒアリング対象者全員から派遣の意思があるとの回答を得た（資料5）。

加えて、兵庫県近隣府県の看護系学部学科を有する大学、短期大学の学部長、学科長、看護系専門学校の校長を対象に、博士後期課程修了者の採用意向に関するアンケート調査を実施し、本学大学院博士後期課程が養成する人材について17名から「採用したい」18名から「採用を検討したい」との回答を得た（資料6）。

そのほか、本学の助教・助手を教育研究者として育成するため、博士課程での学生を促していく。これら調査及び本学の方針から、継続的な学生確保が見込めると考えている。

【資料1：私立大学における大学院看護学研究科修士課程及び博士前期課程志願者数等推移】

【資料2：私立大学における大学院看護学研究科博士課程及び博士後期課程志願者数等推移】

【資料3：兵庫県内大学院看護学研究科博士課程設置大学の入学状況(平成30(2018)年4月)】

【資料4：関西国際大学大学院看護学研究科博士後期課程に係るアンケート調査及び集計結果(入口)】

【資料5：病院看護管理者・大学学部長のヒアリング調査結果】

【資料6：関西国際大学大学院看護学研究科博士後期課程に係るアンケート調査及び集計結果(出口)】

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

博士後期課程設置にあたり、学生確保の見通しを把握するため、平成29年8月から平成31年1月にかけてアンケート調査及びヒアリングを実施した。入学意向（入口）に関するアンケート調査方法は、北播磨・丹波及び近隣地域の看護系大学または医療施設に勤務している修士課程在学中または修了した看護職を対象に、博士課程の

構想概要を記載した資料を添え、アンケート調査を依頼し、郵送で回収した。アンケート調査対象者は、本学修士課程在学学生16名、修士課程修了生6名、本学看護系教員27名、近隣地域の2大学の看護系大学教員50名、北播磨・丹波地域の病院看護師38名、計137名に依頼し、74名から回答（回収率54%）を得た。この中で修士学位未取得者4名を除く70名を集計対象とした（有効回答率95%）。

ヒアリングは、北播磨・丹波地域及び近隣地域の看護系大学学部長並びに病院看護管理者に、アンケート調査依頼時に博士課程の構想概要資料を説明し、看護職の博士課程派遣の意思、派遣するために可能な支援内容、本学博士課程構想への要望等について行った。

博士後期課程修了者の採用意向（出口）に関する調査は、兵庫県および近隣府県（大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、岡山県）の高等教育機関の看護系学部長30名、学科長64名、専門学校長104名、計198名を対象にアンケート調査を依頼し、64名から回答を得た（回収率32.3%、有効回答率100%）。

1) アンケート調査結果（入口）

調査の結果、近隣地域において博士課程への進学希望者が多く潜在する状況と、本学博士課程設置への関心の高さが明らかになった。「博士課程全般への進学希望」については、回答者の23名（33%）が「進学希望」、27名（39%）が「進学に興味がある」と述べ、博士課程進学に積極的な傾向が明らかになった。「本学博士課程が設立された場合の受験の意思」については、14名（20%）が「受験する」と明確な受験希望を表明し、「受験を検討する」の23名（33%）と合わせて53%で本学博士課程の受験に前向きな姿勢が報告された。そのうち、「仮に入学試験で合格した場合、本学博士課程への入学を希望するか」との問いには、22名（31%）が「入学する」、28名（40%）が「状況によって検討する」と好意的な回答がなされた。

「本学博士課程への入学を希望する」、あるいは「検討する」とした理由では、「キャリアアップを図りたい」「臨床で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を向上させたい」「将来、教育者、研究者になりたい」「看護実践の場で指導的役割を担っていきたい」といった声が寄せられた。また、「博士課程で学びたい学問分野」では「看護学」の希望が51名（73%）に上った。これらのことから、単なる知的好奇心ではなく、自己の看護専門職者としてのキャリアアップや成長といった現実的な目標に到達する手段として、本学博士課程を捉えているものと考えられる。「臨床と教育で悩んでいる」ため、博士課程への進学により今後の自己の方向性を積極的に見出そうとするケースも明らかになった。

「進学先選択の際に重視する点」の質問では、「働きながら学べる」、「夜間・土日の開講」を希望する回答が多くみられた。回答者の半数近く（29名（41%））が看護系の大学や養成所で教員として、半数以上（37名（53%））が病院で看護専門職と

して勤務している。進学のための退職を回避し、学業と仕事の両立を可能とするカリキュラム運営が求められている。

2) ヒアリング調査結果

北播磨・丹波地域及び近隣地域の看護系大学学部長 2 名並びに病院看護管理者 4 名、計 6 名へのヒアリングの結果、看護職の博士課程への派遣の意思については、「仕事を続けながら博士を取得できるのなら希望者を派遣したい」「実習指導に支障なく就学できるなら派遣したい」「看護職員確保にもつながるので、希望者は派遣したい」

「教員を確保するためには、大学院の通学を認める」等、看護職員・教員確保も考慮し、仕事を続けながら就学できる方法で、6 名全員が博士課程への派遣を希望していた。「教員として仕事を続けてもらうには博士が必要なので、希望する教員は派遣したい」という大学の切実な意見もあった。

博士課程に看護職を派遣するために可能な支援内容としては、「年次休暇を使い通学できる」「週休を通学日にとれるよう協力する」「研修扱いにする」「研修に派遣するため、非常勤職員を採用する」という何らかの支援を全施設が提示していた。

本学博士課程への要望については、「土曜日に授業があれば仕事に支障なく就学できる」「仕事を続けられるようにしてほしい」「病院から通学可能な範囲に貴学の博士ができれば入学したい」と要望があった。土曜開講など学生が仕事を続けながら就学でき、近隣病院並びに大学が教職員を確保できる配慮が必要であることが、大学・病院管理者のヒアリングでも明らかになった。

3) アンケート調査結果（出口）

調査の結果、近隣府県の高等教育機関における本学博士後期課程の必要性和修了者の採用需要について次の結果が得られた。

回答者数を所属する高等教育機関の位置する府県別にみると、最も多かったのは大阪府 19 人（29.7%）、次いで兵庫県 15 人（23.4%）、京都府 10 人（15.6%）であった（表 1、図 1）。

学校種については、最も多く回答を得たのは、専門学校 36 人（56.3%）、次いで大学が 27 人（42.2%）、短期大学は 1 人（1.6%）であった（表 2、図 2）。

所属機関が「大学」と回答した 27 人のうち、所属校における看護系課程の設置状況は、博士後期課程の設置がなく学士課程・修士課程までしか設置していない大学が半数以上（55.5%）であり、回答者の所属する高等教育機関において、把握できる大学院博士後期課程修了者が「勤務している」割合は 45.3%であり、半数以上の割合で、博士後期課程修了者が勤務していない状況である（表 3、図 3、表 4、図 4）。

また、専門学校に絞って集計したところ、博士後期課程修了者は「勤務していない」との回答が83%以上あり、設置基準により教員審査が厳格な大学との教育の質における格差が、雇用の有無に反映されていることが伺える（表5、図5）。

「博士後期課程修了者が勤務している」と回答した高等教育機関における雇用者数については、「1～5名」と回答した割合が34.5%で最も多くみられた。専門学校はもとより、大学の学士課程や短期大学においても、看護教育の質向上の観点から、博士後期課程修了者のよりいっそうの充足が求められる状況であることが伺える（表6、図6）。

「博士後期課程修了者が勤務している」と回答した機関における、修了者の研究分野は、看護学、基礎看護学、医学、健康医学、臨床教育、臨床福祉、人間健康学、保健学、ウイメンズヘルス、学術などであった（表7）。本学課程では「療養支援看護学」「家族支援看護学」「生活支援看護学」の3つの専攻領域を設けており、その養成する人材についての需要を問うたところ、「とても必要だ」との回答が22人（34.4%）、「必要だ」が36人（56.3%）、合計58人（90.7%）から必要であるとの回答を得るとともに、3領域が等分に関心を持たれている分野であることがわかる（表8、図7、表9）。

本学課程修了者の採用意向について問うたところ、回答者64名中「採用したい」が17人（26.6%）、「採用を検討したい」が18人（28.1%）、合計35人（54.7%）から採用意向があることが伺える回答を得た（表10、図8）。

「採用したい」「採用を検討したい」を選択した35人のうち、「採用が可能と考えられる人数」は「1名」が6人（17.1%）、「2名」が5人（14.3%）、「4名以上」が3人（8.6%）、「人数はわからない（が採用したい）」が21人（60.0%）と、本学課程が予定している入学定員2名、収容定員6名に対し、十分な採用需要があるといえる（表11、図9）。

加えて、今回回答を得た64人に、「貴機関で雇用する教員又は看護職者に、本学博士後期課程への進学を推奨するか否か」という問に対しては、32人（50.0%）から「推奨する」との回答を得ることができた（表12、図10）。

自由意見では、「専門学校とのカリキュラム内容についての統一必要性を研究したい」「入試制度や社会人に対する配慮など、細々した内容について今後、公開をお願いします」「仕事もちながらとなると、学びたいことが通える範囲かどうか重要となります。スカイプなどの利用があればと思います」などのコメントを頂戴した（表13）。

これらの意見を踏まえ、本学大学院では、社会人の学びやすい環境に配慮し、就業年限を5年とする長期履修制度の採用や、昼夜・土曜日開講制を導入し、開講日は院生と相談の上決定するなど、履修しやすい環境を整える計画である。

4) 調査用紙の集計及びヒアリング結果から見た学生確保の見通し

調査結果からも、本学博士課程の設置は、博士課程への進学を目指す看護系教員や看護職のニーズと合致するものと考えられる。土曜日・夜間開講し自家用車で職場から通学できる本学博士課程への近隣地域・施設の関心は高く、入学定員2名の確保は問題ないものと考えられる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金の設定は、周辺の看護系大学院博士課程の学生納付金及び本学看護学研究科修士課程の学納金を鑑み設定した。

関西国際大学大学院看護学研究科博士課程

入学金 200,000 円

授業料 900,000 円

初年次納入金 1,100,000 円

(表1) 兵庫県内私立大学における看護学研究科博士課程の学生納付金額及び本学看護学研究科修士課程の学生納付金

大学院名	研究科名	初年度学生納付金 (内訳)			計
		入学金	授業料	その他	
関西福祉大学大学院	看護学研究科 (博士課程)	200,000	500,000	100,000	800,000
武庫川女子大学大学院	看護学研究科 (博士課程)	280,000	700,000	200,000	1,180,000
甲南女子大学大学院	看護学研究科 (博士課程)	200,000	400,000	100,000	700,000
姫路大学大学院	看護学研究科 (博士課程)	200,000	550,000	150,000	900,000
関西国際大学大学院	看護学研究科 (修士課程)	200,000	900,000	—	1,100,000

② 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

1) 学生確保についての具体的な取り組み状況及びその効果、反応等

看護学研究科修士課程の学生に対して、本学が目指す博士後期課程の教育内容や看護学における教育研究者のあり方について説明している。その結果1名の進学希望者がおり、他の学生も修士課程修了の目処が立ったら進学を検討したいという意思を示しており、現在は修士の学位取得が先決課題であるものの、修士課程修了後に博士課

程の進学を検討したいと述べた在学学生を複数名把握している。将来本学修士課程修了者が博士後期課程に進学する可能性が見込まれる。

また、修士の学位を取得している本学看護学科教員や北播磨・丹波及び近隣地域の看護師と看護教員に対して、本学看護学研究科博士後期課程の教育内容等について説明しており、博士後期課程の必要性についての認識が高まっている。本学看護学研究科博士後期課程では、社会人が仕事を続けながら就学できるよう昼夜土曜開講を行うとともに、長期履修制度を設けており、学生の自家用車通学もできることから、北播磨・丹波近隣地域の看護職員並びに看護教員が就学しやすい学習環境を整えている。アンケート対象とした病院の看護部長・副看護部長等の病院管理者並びに看護学科を有する近隣大学の学部長にも、北播磨・丹波及び近隣地域の施設における継続教育及び大学における看護学教育の質の向上を図り、看護師・看護教員が高度教育を受ける機会を得ることにより北播磨・丹波及び近隣地域の課題である看護系人材の確保への一助となる共通理解を深め、看護職員及び看護系教員を博士後期課程へ派遣する際に学生が職場から支援を得られることを確認することができた。

本学では、博士後期課程を設置するため豊かな教授陣を確保できたことから、北播磨・丹波及び近隣地域の施設の要請に応え、兵庫県看護協会北播磨支部や保健医療機関等の研修の講師依頼を積極的に引き受け、講師を派遣することによって本学看護学研究科博士後期課程教授陣の教育研究能力を地域に理解し活用してもらえよう活動する予定である。

2) 学生確保に向けた大学全体の学生募集や広報活動としての取り組み状況

[1] 修学しやすい学習環境の整備

本研究科のアドミッションポリシーに基づき、学生募集を行っていく。本研究科の入学者イメージとしては、臨床現場にて就業経験のある看護職者や、大学等の教育機関に勤務している教育者を主とした入学者がイメージされる。そのため、就業中の社会人も修学しやすいように、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例を実施し、修業年限、履修方法、授業実施方法を弾力的に行う。

[2] 北播磨地域周辺の医療施設との関係強化

本学の保健医療学部看護学科は、兵庫県北播磨地域の医療の中核施設として開設された「北播磨総合医療センター」及び北播磨地域への看護職者の供給を期待し、地元自治体や周辺医療施設からの協力を得て設置された。本大学院も、当該地域における看護職者を主な志願者層の一つとして捉えており、看護学科学生の実習を依頼している周辺医療施設を中心に、本学の担当者がガイダンスや説明会を行うなど、直接働きかけを行っていく予定としている。

[3] 様々な媒体による広報活動

本学の学生募集用パンフレットやリーフレットの配布や進学者向け一般広報紙媒体への掲示の他、ホームページ等の電子媒体など、多数のメディアを使用しPRを行う。特に、兵庫県北播磨地域の医療施設を中心に、兵庫県内の各医療施設や兵庫県看護協会などにも広報活動を行うこととし、広く兵庫県内の看護職者への周知を図っていくこととしている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材養成に関する目的その他の教育上の目的(概要)

本学看護学研究科博士後期課程は、深い人間理解に基づき、新たな知見を国内外に発信し、看護学の知識体系の発展や看護実践の改善・開発に寄与できる教育研究者を育成することを目的としている。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等をふまえたものであることの客観的な根拠

今回の北播磨・丹波地域及び近隣地域の看護系大学学部長2名並びに病院看護管理者4名、計6名へのヒアリング結果では、全員が博士課程への部下の派遣を希望していた。派遣希望の理由として、安定的な教職員の確保が挙げられた。博士課程に教員や看護職を派遣するための勤務調整など、全施設が何らかの支援を実施する意向を示していた。本学博士課程への要望としては、土曜開講など仕事と両立可能なカリキュラム運営と、将来的な教職員確保への配慮が伝えられた。近隣の看護系教員及び病院等に勤務する看護専門職者を対象としたアンケート調査でも、本学の近隣地域において博士課程への進学希望者が多く、本学博士課程設置への関心も高いという状況が明らかになった。「博士課程で学びたい学問分野」として51名(73%)が「看護学」をあげており、「本学博士課程が設立された場合の受験の意思」については、14名(20%)が「受験する」と回答し、「受験を検討する」の23名(33%)と合わせて53%が本学博士課程の受験に前向きであった。本学博士課程への入学を希望、あるいは検討するとした理由として、「キャリアアップを図りたい」「臨床で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を向上させたい」「将来、教育者、研究者になりたい」「看護実践の場で指導的役割を担っていきたい」「臨床と教育で悩んでいる」などの回答が寄せられた。これらのことから、近隣地域の大学や病院といった雇用者側は、博士号をもつ教職員の安定的な確保、個々の教員や看護職者は自己の教員としての成長や専門職者としてのキャリアアップの手段として、本学博士課程に期待を寄せている状況が明らかになった。

3. 地域社会的要請への対応

現在兵庫県には看護系大学は13校あるが、大学院看護学研究科博士後期課程設置状況は、国立1校、公立2校、私立4校のみで全てJR東海道・山陽本線沿いであり、交通の利便性が高い神戸など周辺の都市で勤務している看護系教員が仕事を続けながら入学し学修している傾向がある。そのため、本校のように東海道本線から離れた北播磨・丹波地域の地方都市に位置する大学では講師・准教授・教授として教育を中心に推進する教員の不足に苦しんでいる。したがって、本学に高度な研究能力をもった教育研究者を育成する看護学研究科博士後期課程を設置する意義は深く、その緊急性は極めて高い。博士後期課程修了者は、学際的、独創的な研究を行うことができる高度な研究能力を有する教育研究者として、北播磨・丹波地域の看護教育を支えると共に、研究成果を国内外問わず広く社会に発信し貢献するものと考えられる。

【資料7：兵庫県内大学院看護学研究科博士課程位置図】

資料 目次

資料 1 : 私立大学における大学院看護学研究科修士課程及び博士前期課程志願者数等推移

資料 2 : 私立大学における大学院看護学研究科博士課程及び博士後期課程志願者数等推移

資料 3 : 兵庫県内における大学院看護学研究科博士課程設置大学の入学状況
(平成 30(2018)年 4 月)

資料 4 : 関西国際大学大学院看護学研究科博士後期課程に係るアンケート調査及び集計結果(入口)

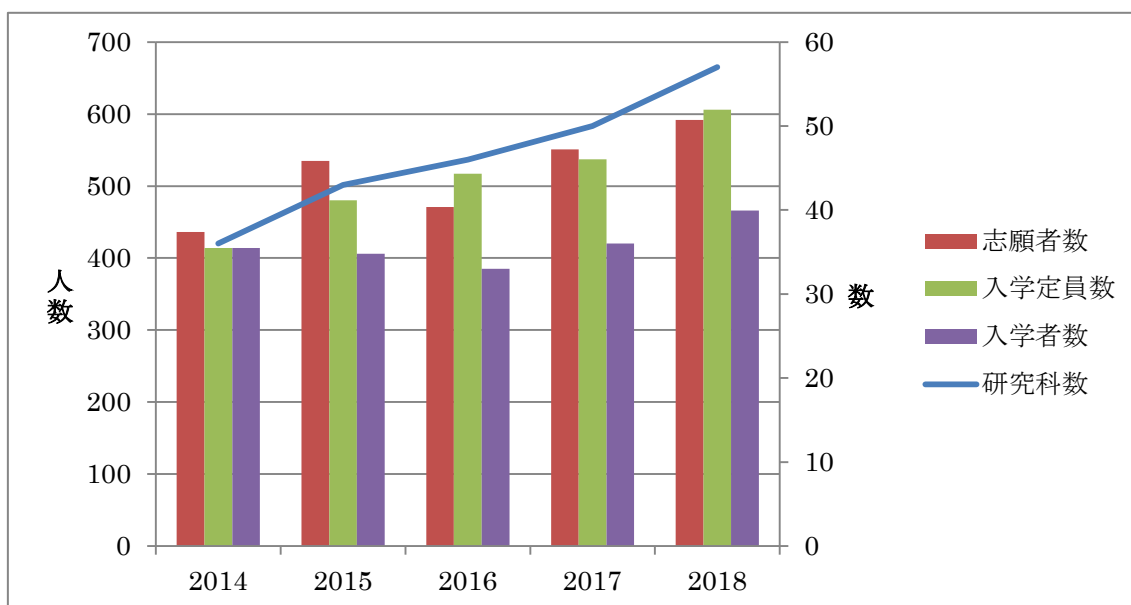
資料 5 : 病院看護管理者・大学学部長のヒアリング調査結果

資料 6 : 関西国際大学大学院看護学研究科博士後期課程に係るアンケート調査及び集計結果(出口)

資料 7 : 兵庫県内大学院看護学研究科博士課程位置図

資料 1

私立大学における大学院看護学研究科修士課程及び博士前期課程志願者数等推移

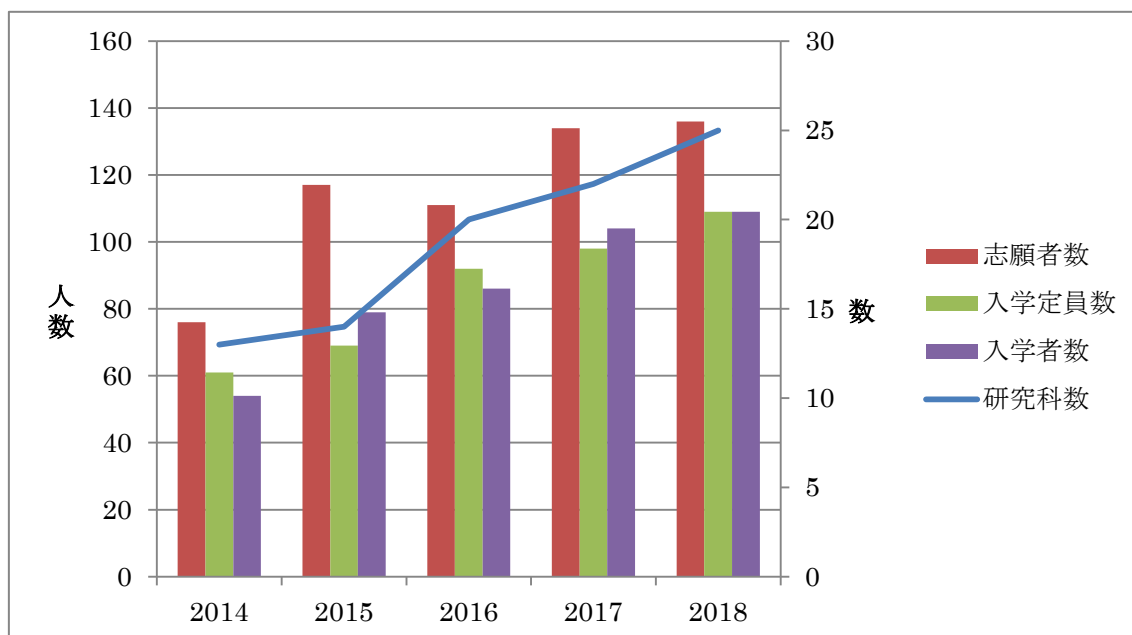


年度	研究科数	志願者数	入学定員数	入学者数
H26(2014)	36	436	414	414
H27(2015)	43	535	480	406
H28(2016)	46	471	517	385
H29(2017)	50	551	537	420
H30(2018)	57	592	606	466

「私立大学・短期大学等入学志願動向（平成 2014 年度～2018 年度）」、日本私立学校振興・共済事業団より

資料 2

私立大学における大学院看護学研究科博士課程及び博士後期課程志願者数等推移



年度	研究科数	志願者数	入学定員数	入学者数
H26(2014)	13	76	61	54
H27(2015)	14	117	69	79
H28(2016)	20	111	92	86
H29(2017)	22	134	98	104
H30(2018)	25	136	109	109

「私立大学・短期大学等入学志願動向（2014年度～2018年度）」、日本私立学校振興・共済事業団より

資料3

兵庫県内における大学院看護学研究科博士課程設置大学の入学状況（平成30(2018)年4月）

設置区分	大学	研究科	専攻	課程	入学定員	入学者数	備考
国立	神戸	保健学	保健学	博士後期	25	29	看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域、地域保健学領域、国際保健学領域の5つの領域を含む
公立	兵庫県立	看護学	看護学	博士後期	4	1	
公立	神戸市看護	看護学	看護学	博士後期	3	0	
私立	関西福祉	看護学	看護学	博士後期	3	2	
私立	武庫川女子	看護学	看護学	博士後期	3	5	
私立	甲南女子大学	看護学	看護学	博士後期	3	5	
私立	姫路大学	看護学	看護学	博士後期	6	9	
合計	7大学				<u>47</u>	<u>51</u>	

各大学ホームページより

関西国際大学大学院

看護学研究科看護学専攻博士課程（仮称・設置構想中）

に係るアンケート調査

関西国際大学は、平成 27 年（2015 年）に設置した大学院看護学研究科看護学専攻修士課程に続き、平成 32 年（2020 年）に大学院看護学研究科看護学専攻博士課程（仮称・設置構想中）の設置を予定しています。

本学では皆様の進路についての率直な考えをお聞きし、大学院博士課程を開設の際には広く看護職者（看護師・保健師・助産師・教員など）を大学院生として受け入れたいと考えています。

このアンケートの回答は、設置構想にあたっての統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することや他の目的に使用することは一切ありません。

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【アンケート対象者】

平成 31 年 1 月現在

修士課程在学中もしくは修士の学位をお持ちの看護職の皆様

修士の学位は看護系以外でも出願可能です。詳細は事前にご確認ください。

アンケート回答後、お手数ですが返信用封筒にてご返送をお願いいたします。

関西国際大学
大学院看護学研究科看護学専攻博士課程（仮称・設置構想中）
平成32年（2020年）4月開設予定

大学院 概要

設置年月：平成32年4月（予定）
名称：看護学研究科看護学専攻博士課程（仮称・設置構想中）
入学定員：1名 修行年限：3年（長期履修制度あり、最大6年まで）
開講形態：昼夜及び土曜開講（大学院設置基準2条の2及び第14条適用）
学位：博士（看護学）
設置場所：兵庫県三木市 関西国際大学三木キャンパス

教育目的

本大学院の看護学研究科看護学専攻は、豊かな学識を持ち看護学の深奥を極めることができる自立した教育研究者を育成する。

教育研究 特色

昼夜及び土曜開講であり、教員または看護師として仕事をつづけながら博士課程で学修できる。また、人間行動学研究科、心理臨床センター、子育て支援センター、心理臨床研究所、教育総合研究所、地域創成研究所を有し、人間の深い理解と支援に対する地域に根差した実践的な教育研究が可能な環境が整備されている。

年間授業料

初年度納付金（すべて予定） 100万円
内訳：入学金 20万円 授業料 80万円
長期履修制度の利用で最大6年間まで3年分の学費で在籍できます。

修了後の進路

大学院の教員や行政等の看護職



**看護学科・看護学研究科看護学専攻
修士課程について**

関西国際大学は平成24年度に保健医療学部看護学科、平成26年度に看護学研究科を設置しました。

【保健医療学部 看護学科】

定員： 入学定員80名
修業年限：4年
開講形態：昼間

【看護学研究科修士課程】

定員：6名
修業年限：2年（最長4年）
開講形態：昼夜（男女共学）

三木キャンパスへのアクセス

●山陽自動車道「三木東IC」より約10分 ●三宮から「新神戸トンネル」経由約30分

2ページをお読みの上、以下の質問にお答えください。

問1 あなたの修士の学位について教えてください。(あてはまるもの一つに○)

1. 取得済み (学位の種類・名称: _____ 学位取得時期: _____年 _____月)
2. 修士課程に在学中 (学位の種類・名称: _____ 学位取得時期: _____年 _____月)
3. 1・2に該当しない -----▶ 質問は以上です。修士課程の入試情報をご希望の方は、
下記に連絡先をご記入下さい。後日資料をお送りします。

問2 あなたは大学院博士課程への進学を希望していますか。(あてはまるもの一つに○)

1. 進学を希望している -----▶ 「問3」以降にお答えください。
2. 進学に興味がある -----▶ 「問3」以降にお答えください。
3. わからない -----▶ 「問7」以降にお答えください。
4. 進学を希望していない。 -----▶ 「問8」以降にお答えください。

問3 あなたが大学院で学びたい学問分野について教えてください。(あてはまるもの一つに○)

1. 看護学
2. 看護学以外 (_____) -----▶ 「問8」以降にお答えください。

問4 あなたは関西国際大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程(仮称・設置構想中)が開設されれば、受験したいと思いますか。(あてはまるもの一つに○)

1. 受験する -----▶ 「問5」以降にお答えください。
2. 受験を検討する -----▶ 「問5」以降にお答えください。
3. 受験しない -----▶ 「問7」以降にお答えください。
4. わからない -----▶ 「問7」以降にお答えください。

問5 あなたは関西国際大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程(仮称・設置構想中)の入学試験に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの一つに○)

1. 入学する
2. 状況によって入学を検討する

問6 関西国際大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程(仮称・設置構想中)に入学する、もしくは入学を検討すると回答した理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので
2. 博士の学位を取得し、キャリアアップを図りたいので
3. 将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたいので
4. 将来、教育者、研究者になりたいので
5. その他 (_____)

問1 修士の学位取得状況

項目	数	割合
修士修了	53	76%
修正課程在籍中	17	24%
その他	4	6%
計	70	100%

修士の種類

項目	数	割合
看護学	42	60%
急性看護学	1	1%
学術	3	4%
人間科学	2	3%
社会学	2	3%
臨床心理学	2	3%
保健学	2	3%
MBA	2	3%
人間学	1	1%
ヘルスマネージャー学	1	1%
医療安全管理学	1	1%
応用情報科学	4	6%
未回答	7	10%
計	70	100%

修士の取得年

項目	数	割合
～1999	2	3%
2000～2009	20	29%
2010～2017年3月	23	33%
～2020取得予定	13	19%
未回答	12	17%
計	70	100%

問2 博士への進学

項目	数	割合
進学を希望	23	33%
進学に興味	27	39%
わからない	10	14%
希望しない	10	14%
未回答	0	0%
計	70	100%

問3 大学院で学びたい学問分野

項目	数	割合
看護学	51	73%
看護学以外	7	10%
未回答	15	21%
計	70	100%

問4 関西国際大学の博士課程が開設されれば受験したいか

項目	数	割合
受験する	14	20%
受験を検討する	23	33%
受験しない	7	10%
わからない	7	10%
未回答	19	27%
計	70	100%

問5 仮に入学試験に合格した場合、入学したいか

項目	数	割合
入学する	22	31%
状況によって検討する	28	40%
未回答	20	29%
計	70	100%

問6 本学大学院博士課程に入学したい・入学を検討するとした理由は何か。

項目	数	割合
臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたいので	20	29%
博士の学位を取得し、キャリアアップを図りたいので	30	43%
将来、臨床の現場の指導者、指導的役割を担いたいので	9	13%
将来、教育者、研究者になりたいので	15	21%
その他	3	4%
計	70	100%

問7 進学先を選ぶ際に重視する点

項目	数	割合
指導を受けたい教授・教員	41	59%
学びたい教育プログラム	14	20%
研究に重点	10	14%
働きながら学べる	28	40%
施設や設備	6	9%
知名度が高く、ブランド力	1	1%
夜間・土日開講	15	21%
長期履修の制度	11	16%
交通の便	18	26%
就職の支援体制	0	0%
学費が許容範囲	23	33%
職場の上司や先輩等からのお勧め	3	4%
その他	0	0%
計	70	100%

問8 性別

項目	数	割合
女性	58	83%
男性	8	11%
未回答	4	6%
計	70	100%

年齢

項目	数	割合
20歳代	1	1%
30歳代	15	21%
40歳代	24	34%
50歳代以上	30	43%
未回答	1	1%
計	70	100%

問9 あなたの現在の身分・職業

項目	数	割合
看護師	37	53%
保健師	1	1%
助産師	2	3%
看護の教員	29	41%
その他（記載なし）	1	1%
計	70	100%

問10 現在勤務する職場

項目	数	割合
病院 300床未満	2	3%
病院 300～500床未満	16	23%
病院 500～1000床未満	14	20%
病院 1000床以上	0	0%
訪問看護ステーション	1	1%
高齢者福祉施設	2	3%
行政機関	0	0%
看護系の大学・養成所等	33	47%
その他	2	3%
計	70	100%

問11 現在保有している免許

項目	数	割合
看護師	70	100%
保健師	20	29%
助産師	8	11%
その他	5	7%
計	70	100%

問12 現在の居住地

項目	数	割合
兵庫県	61	87%
大阪府	4	6%
奈良県	0	0%
京都府	0	0%
岡山県	0	0%
滋賀県	1	1%
その他	0	0%
未回答	4	6%
計	70	100%

問13 連絡先の提示

項目	数	割合
有	7	10%
無	63	90%
計	70	100%

資料5

病院看護管理者・大学学部長のヒアリング調査結果

(1) ヒアリング対象者

- ・ 2病院の看護管理者 4名
- ・ 2大学の看護学部長 2名

(2) ヒアリングの内容

① 看護職の本学看護学研究科博士課程への派遣の意思について

ヒアリング対象者全員(6名)が派遣の意思があると回答した。

(回答)

- ・ 仕事を続けながら博士を取得できるのなら、希望者を派遣したい。
- ・ 実習指導に支障なく就学できるなら派遣したい。
- ・ 看護職員確保にもつながるので、希望者は派遣したい。
- ・ 教員を確保するためには、大学院の通学を認める。
- ・ 希望する職員には、学べるよう支援したい。
- ・ 大学院開設を準備しており、教員を派遣し博士を取得してもらいたい。
- ・ 教員として仕事を続けてもらうには博士が必要なので、希望する教員は派遣したい。
- ・ 教員の質を高めたいので、派遣したい。

② 本学看護学研究科博士課程に看護職を派遣するために可能な支援内容

(回答)

- ・ 年次休暇を使い、通学できる。
- ・ 週休を通学日にとれるよう協力する。
- ・ 研修扱いにする。
- ・ 研修に派遣するため、非常勤職員を雇用する。

③ その他・要望等

(回答)

- ・ 土曜日に授業があれば、仕事に支障なく就学できる。
- ・ 仕事を続けられるようにしてほしい。
- ・ 病院から通学可能な範囲に博士課程ができれば、入学したい。

関西国際大学大学院

看護学研究科看護学専攻博士課程（仮称・設置構想中）に係る

アンケート調査

関西国際大学は、平成 27 (2015) 年に設置した大学院看護学研究科看護学専攻修士課程に続き、2020 年 4 月に大学院看護学研究科看護学専攻博士課程（仮称・設置構想中）の設置を予定しています。

本学では貴職における人材需要についての率直な考えをお聞きし、大学院博士課程を開設の際には、広く看護職者や看護教員を大学院生として受け入れたいと考えています。

このアンケートの回答は、設置構想にあたっての統計資料としてのみ活用するものであり、個人を特定することや他の目的に使用することは一切ございません。

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【アンケート対象者】

平成 30 (2018) 年 12 月現在

兵庫県近隣府県における高等教育機関の看護系学部長・学科長・専門学校長の皆様

アンケート回答後、お手数ですが返信用封筒にてご返送をお願いいたします。

関西国際大学
大学院看護学研究科看護学専攻博士課程（仮称・設置構想中）
2020年4月開設予定

大学院の概要

設置年月： 2020年4月（予定）
 名称： 看護学研究科看護学専攻博士課程（仮称・設置構想中）
 入学定員： 2名 修行年限：3年（長期履修制度あり、最大6年まで）
 開講形態： 昼夜及び土曜開講（大学院設置基準第2条の2及び第14条適用）
 学位： 博士（看護学）
 設置場所： 兵庫県三木市 関西国際大学三木キャンパス

教育目的

本大学院の看護学研究科看護学専攻は、豊かな学識を持ち看護学の深奥を極めることができる自立した教育研究者を育成する。

教育研究の特色

昼夜及び土曜開講であり、教員または看護師として仕事を続けながら博士課程で学修できる。また、人間行動学研究科、心理臨床センター、子育て支援センター、心理臨床研究所、教育総合研究所、地域創成研究所を有し、人間の深い理解と支援に対する地域に根差した実践的な教育研究が可能な環境が整備されている。

年間授業料

初年度納付金（すべて予定） 100万円
 内訳：入学金 20万円 授業料 80万円
 長期履修制度の利用で最大6年間まで3年分の学費で在籍できます。

修了後の進路

高等教育機関（大学・大学院・専門学校）の教員や行政等の看護職



看護学科・看護学研究科看護学専攻修士課程について

関西国際大学は平成24年度に保健医療学部看護学科、平成27年度に看護学研究科を設置しました。

【保健医療学部 看護学科】

入学定員：80名
 修業年限：4年
 開講形態：昼間

【看護学研究科修士課程】

入学定員：6名
 修業年限：2年（最長4年）
 開講形態：昼夜（男女共学）

三木キャンパスへのアクセス

- 山陽自動車道「三木東IC」より約10分
- 三宮から「新神戸トンネル」経由約30分（三宮から直通スクールバスあり）

2 ページをお読みの上、以下の質問にお答えください。

問 1 貴機関の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 兵庫県
2. 大阪府
3. 京都府
4. 奈良県
5. 和歌山県
6. 滋賀県
7. 岡山県
8. その他 ()

問 2 貴機関についてお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 大学
2. 短期大学
3. 専門学校
4. その他 ()

問 3 問 2 で 1 の場合、貴学の看護系学部学科及び大学院の設置状況についてお答えください。
(あてはまるもの1つに○)

1. 学部学科のみ設置
2. 大学院博士課程前期課程(修士課程)まで設置
3. 大学院博士課程後期課程(博士課程)まで設置

問 4 貴機関における、大学院博士後期課程修了者の勤務の有無についてお答えください。
(あてはまるもの1つに○)

1. 大学院博士課程後期課程修了の教員又は看護職者が勤務している (_____ 名が勤務中)
ご支障がなければ、大学院博士課程後期課程修了の方が研究された分野をお答えください。

()

2. 大学院博士課程後期課程修了の教員又は看護師は勤務していない。
3. わからない

問 5 本学大学院博士後期課程(仮称・設置構想中)が養成する人材は、これからの社会にとって必要であると思われますか。(あてはまるもの1つに○)

1. とても必要だと思う
2. 必要だと思う
3. あまり必要でないと思う
4. 必要でないと思う

問 6 本学大学院博士後期課程の、どの専攻領域に関心がおありですか。(複数回答可)

1. 療養支援看護学
2. 家族支援看護学
3. 生活支援看護学
4. その他 ()

問 7 貴機関において、本学大学院博士後期課程の修了生を採用したいと考えられますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. どちらともいえない
4. 採用しない

問 8 問6で、1か2の場合、採用が可能と思われる人数をご記入ください。

(あてはまるもの1つに○)

1. 1名
2. 2名
3. 3名
4. 4名以上
5. 人数はわからない

問 9 貴機関に勤務する教員又は看護職者を、本学大学院博士後期課程に進学させるご意向はありますか？(あてはまるもの1つに○)

1. 研修制度(就学助成金・休職など)を利用させ、進学・入学させたい
2. 現職のまま(社会人として)進学・入学させたい
3. 進学・入学を推奨するが、本人の意思に任せる
4. 進学・入学を推奨する予定はない
5. わからない

問 10 本学大学院博士後期課程に対し、ご意見等があればご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

関西国際大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程に係る
アンケート調査集計結果（大学、短期大学、専門学校）
（平成30年12月実施）

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、関西国際大学（以下、本学）三木キャンパスにおいて、看護学専攻博士課程後期課程の開設にあたり、兵庫県および近隣府県の高高等教育機関での博士課程修了者の需要を調査することで、本学博士課程開設の必要性を確認し、実証することを目的として実施したものである。

2. 調査の時期

平成30年12月12日～平成31年1月9日

3. 調査対象

兵庫県および近隣府県の高高等教育機関の看護系学部長・学科長・専門学校長

（近隣府県：大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、岡山県）

配布数 198 枚

4. 調査方法

自記方式調査票を個別に郵送し、記入後同封の返信用封筒にてご返送いただく方法。

5. 回収状況

有効回答数 64 部、回収率は 32.3 %であった。

6. 注意事項

① 回答率（各項目の回答の百分比）は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの数値を記載している。

② 本文、統計表等で用いた記号の意味は、次のとおりである。

n：当該質問に対する回答数であり、比率算出の基数である。

II. 調査結果

1. 府県別回答者数について

回答者数を所属する高高等教育機関の位置する府県別にみると、最も多かったのは大阪府19名（29.7%）、次いで兵庫県15名（23.4%）、京都府10名（15.6%）であった。

表1 府県別回答者数（n=64）

所属機関の所在地	回答者数	割合
兵庫県	15	23.4%
大阪府	19	29.7%
京都府	10	15.6%

奈良県	6	9.4%
和歌山県	3	4.7%
滋賀県	6	9.4%
岡山県	4	6.3%
その他	1	1.6%

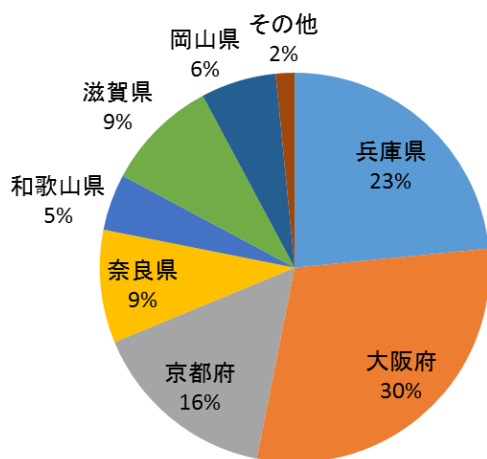


図1 府県別回答者数の割合

2. 学校種について

回答者の高等教育機関種別でみると、最も多く回答を得たのは、専門学校36人（56.3%）、次いで大学が27人（42.2%）、短期大学は1人（1.6%）であった。

表2 回答者の所属する高等教育機関種別（n=64）

学校種	回答者数	割合
大学	27	42.2%
短期大学	1	1.6%
専門学校	36	56.3%
その他	0	0.0%

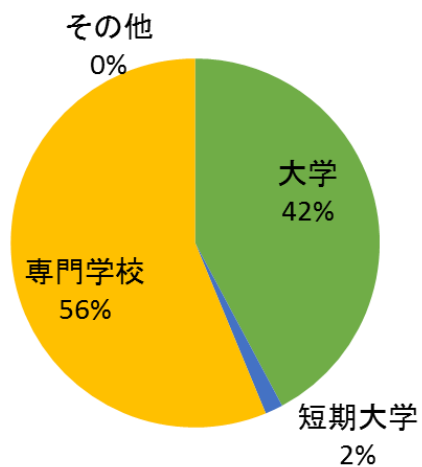


図2 高等教育機関種別の割合

3. 大学における看護系学部学科および大学院の設置状況について

2. において所属機関が「大学」と回答した27名のうち、所属校における看護系課程の設置状況は、博士後期課程の設置がなく学士課程・修士課程までしか設置していない大学が半数以上（55.5%）である。（表3、図3）

表3 看護系課程の設置状況（n=27）

看護系課程の設置状況	回答者数	割合
学士課程まで	6	22.2%
修士課程まで	9	33.3%
博士課程まで	12	44.4%

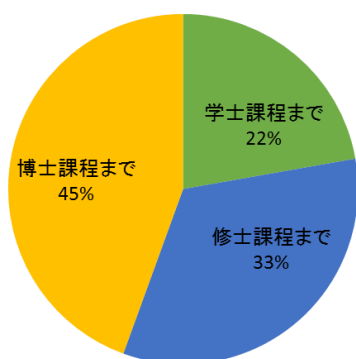


図3 看護系課程の設置状況の割合

4. 博士後期課程修了者の勤務の有無について

- 1) ① 回答者の所属する高等教育機関において、把握できる大学院博士後期課程修了者が「勤務している」割合は45.3%であり、半数以上の割合で、博士後期課程修了者が勤務していない状況である。（表4、図4）

表4 博士後期課程修了者の有無（n=64）

博士後期課程修了者の有無	回答者数	割合
勤務している	29	45.3%
勤務していない	31	48.4%
わからない	3	4.7%
無回答	1	1.6%

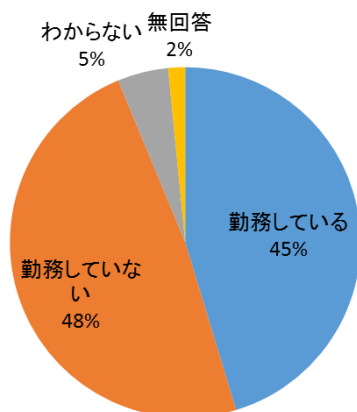


図4 博士後期課程修了者の有無の割合

② また、専門学校に絞って集計したところ、博士後期課程修了者は「勤務していない」との回答が83%以上あり、設置基準により教員審査が厳格な大学との教育の質における格差が、雇用の有無に反映されていることが伺える。（表5、図5）

表5 専門学校における博士後期課程修了者の有無 (n=36)

専門学校における博士後期課程修了者の有無	回答者数	割合
勤務している	3	8.3%
勤務していない	30	83.3%
わからない	2	5.6%
無回答	1	2.8%

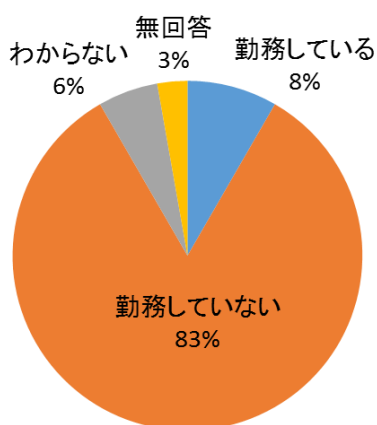


図5 専門学校における博士後期課程修了者の有無の割合

2) 上記1) ①で「勤務している」と回答した高等教育機関における雇用者数を表6、図6に示す。「1~5名」と回答した割合が34.5%で最も多く、大学・短期大学においても、教育の質向上の観点から、博士後期課程修了者のよりいっそうの充足が求められる。

表6 博士後期課程修了者の雇用者数 (n=29)

博士後期課程修了者の雇用者数	回答者数	割合
1~5名	10	34.5%
6~10名	9	31.0%
11~15名	2	6.9%
16~20名	2	6.9%
21名~25名	2	6.9%
無回答	4	13.8%

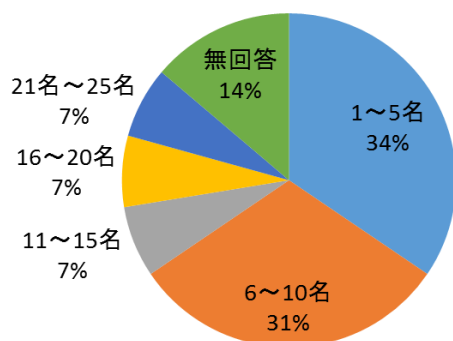


図6 博士後期課程修了者の雇用数割合

3) 上記1) ①において「勤務している」と回答した機関における、博士後期課程修了者の研究分野は次のとおりである。

表7 勤務している博士後期課程修了者の研究分野

勤務している博士後期課程修了者の研究分野
看護学
基礎看護学
医学
健康医学
臨床教育
臨床福祉
人間健康科学
保健学
ウィメンズヘルス
学術

5. 本学博士後期課程が養成する人材の社会需要

64名の回答のうち「とても必要だ」が22人（34.4%）、「必要だ」が36人（56.3%）、合計58人（90.6%）から本学の養成する博士後期課程修了者がこれからの社会にとって必要であるとの回答を得た。（表8、図7）

また、表9からは本学博士後期課程に設定する3つの専攻領域が、ほぼ等分に関心が持たれている領域であることが伺える。（表9）

表8 本学博士後期課程が養成する人材の社会需要（n=64）

本学博士後期課程が養成する人材の社会需要	回答者数	割合
とても必要だ	22	34.4%
必要だ	36	56.3%
あまり必要でない	3	4.7%
必要でない	0	0.0%
無回答	3	4.7%

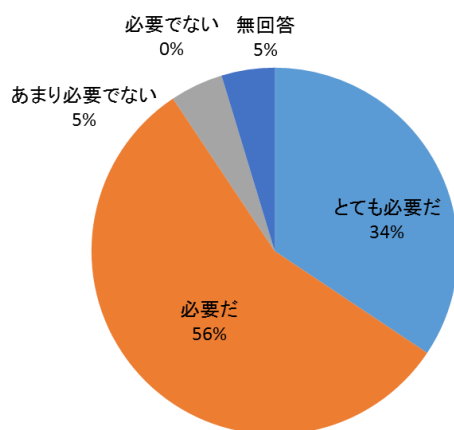


図7 本学博士後期課程が養成する人材の社会需要の割合

表9 本学博士後期課程において、関心のある専攻領域（n=109）

関心のある専攻領域(複数回答可)	回答者数	割合
療養支援看護学	33	30.3%
家族支援看護学	33	30.3%
生活支援看護学	36	33.0%
その他(在宅支援、看護教育、看護管理)	7	6.4%

6. 本学博士後期課程修了者の採用意向について

回答者64人中「採用したい」が17人（26.6%）、「採用を検討したい」が18人（28.1%）、合計35人（54.7%）から採用意向が伺える回答を得た。（表10、図8）

表10 本学博士後期課程修了者の採用意向（n=64）

本学博士後期課程修了者の採用意向	回答者数	割合
採用したい	17	26.6%
採用を検討したい	18	28.1%
どちらともいえない	25	39.1%
採用しない	3	4.7%
無回答	1	1.6%

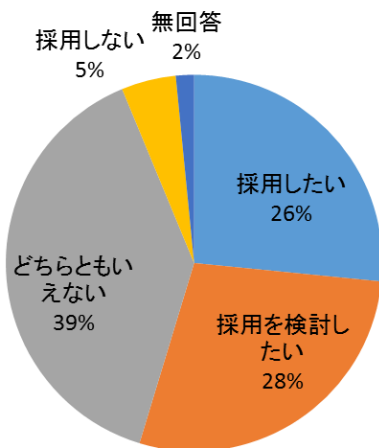


図8 本学博士後期課程修了者の採用意向の割合

7. 上記6において、「採用したい」「採用を検討したい」を選択した35人のうち、「採用が可能と考えられる人数」の問に対する回答を表11に記す。本学博士後期課程が予定している入学定員2名、収容定員6名に対し、十分な需要が見込まれる。

表11 本学博士後期課程修了者の採用可能人数（n=35）

本学博士後期課程修了者の採用可能人数	回答者数	割合
1名	6	17.1%
2名	5	14.3%
3名	0	0.0%
4名以上	3	8.6%
人数はわからない	21	60.0%

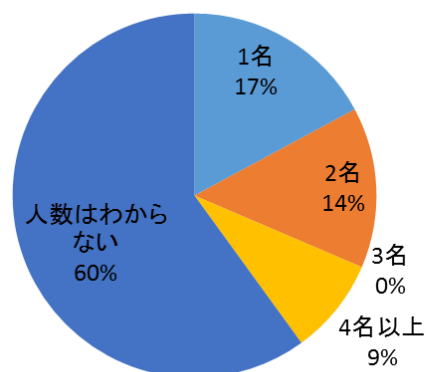


図9 本学博士後期課程修了者の採用可能人数の割合

8. 本学博士後期課程への進学推奨について

回答を得た64人の高等教育機関で雇用する教員又は看護職者に、本学博士後期課程への進学を推奨するか否かの問に対しては、32人（50.0%）が推奨する意向を表している。（表12、図10）

表12 雇用する教員又は看護職者への本学博士後期課程進学推奨意向（n=64）

本学博士後期課程への進学推奨意向	回答者数	割合
研修制度を利用させ、進学・入学させたい	1	1.6%
現職のまま(社会人として)進学・入学させたい	5	7.8%
推奨するが、本人の意思に任せる	26	40.6%
推奨する予定はない	17	26.6%
わからない	14	21.9%
無回答	1	1.6%

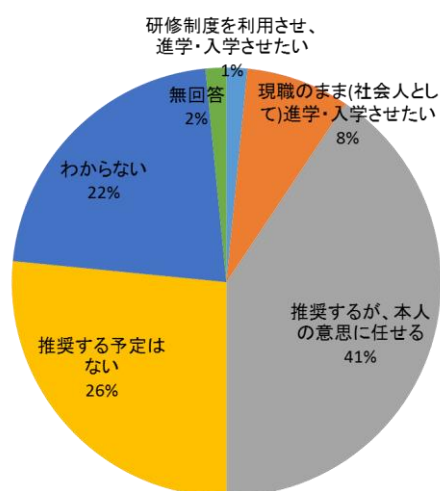


図10 本学博士後期課程進学推奨意向の割合

9. 本学博士後期課程に対する自由意見

回答者からの自由意見は次のとおりである。

表13 本学大学院博士後期課程に対する自由意見

本学大学院博士後期課程に対する自由意見
専門学校とのカリキュラム内容についての統一必要性を研究したい。
三木は通うのは難しいので、週末や期間限定等でないと困難です。
人員不足でなかなか難しい状況です。
定員2名程度で大学院の標榜が妥当か。
入試制度や社会人に対する配慮など、細々した内容について今後、公開をお願いします。
遠方であるため、進学を現職のまますることは困難かと考えます。臨床現場を経験してこそ、研究が幅広くなり、教育に活かせると思いますので、実践家かつ研究者であっていただきたいです。
仕事をもちながらとなると、学びたいことが通える範囲かどうか重要となります。スカイプなどの利用があればと思います。
貴学は京都からは遠方のため、無理があるように思います。
頑張ってください。
後期課程は働きながらでは困難かと考えます。専念する必要があるのでは？

これらの意見を踏まえ、本学大学院では、社会人の学びやすい環境に配慮し、就業年限を5年とする長期履修制度の採用や、昼夜・土曜日開講制を導入し、開講日は院生と相談の上決定するなど、履修しやすい環境を整える計画である。

以上

資料7：兵庫県内大学院看護学研究科博士課程位置

